

められる。

最後にイソップ物語の紹介に移る。此の断片は第十四文書として收められてある。寫眞の載せてないのは物足らぬ思がするが、説明によると歐洲風の大形の書物の一葉中、其の上部に當る部分である。大きさは 27.8×17 cm. 即ち凡そ我が九寸三分に五寸三分に當る。文字は所謂ウィグル文字發見の場所は高昌の遺趾である。表裏僅に九行づゝ—それも下部に於て缺けて—を殘して居るに過ぎぬが、表面の本文第一列の上方に、次に示す如く赤字で「〔賢き〕ヨシパスの」と記し、裏面同位置に同じく赤字で「善き美しき〔本〕」とあり、本文中にも三個所にヨシパスの名が記されて居るので、内容と相考へてイソップ物語の断片であることは誰にも承認し得られる。著者は此のヨシパスとイソップ、即ち Yosipas=Sophos=Aesop の對比についてはブレスラウのリュツケル教授に負ふ處を謝すと前序に記し、内容については Landsberger, Fabeln des Sophos, 1859 S. 121, Nr. 66 を参照せよと記して居るが、自分は今此の書を見る便宜を有しないのは残念である。一般讀者の便宜の爲にもと思つて、次に原文の音譯と、自分の邦語對譯とを添へて見る

表 面

(赤字) [bilgä] Yosipas ning
〔賢キ〕 イソツパ ノ

külmis
彼等ハ笑ヒテ(ヘリ)

1. kärgak [・・] bu savqa ymä gam(a)yan
...ザル可ラズト 此ノ 言葉ニ 又 スベテ

2. lär Yosipas(a)ŷ ögmis lär inčä timislär
イソツパヲ 賞シテ(セリ)(彼等ハ) カク 云ヘリ